

# サロン今昔

真壁文男

## 入会の頃

私は平成21年4月に入会しました。4月4日土曜日の例会に初めて出席しました。

どの例会でどんな勉強をしているかも知らずいきなり出席しましたので、全く理解できなかつた記憶があります。当時の日記に〈相当専門的、相当難しい。〉と書かれています。

果たしてついて行けるのだろうかとおぼろげに思いました。

色々出席しているうちに「何でも相談」で私のような初心者にも親切に個人指導してくれることを知りました。

[こらぼサロン]の時代です。

時間に何うと、すでに狭い部屋いっぱい人がいます。いつも熱心な会員が早めに出てきています。

一隅を片付けて座ると、当番の久保井さんが、「お茶にしますか、コーヒーにしますか？」と優しく聞いてくれます。恐縮しながらも「コーヒーをブラックでお願いします。」と厚かましくお願いしました。

伊山さん瀬川さん永田さんが「何でも良いから疑問に思ったことを質問しなさい。」とリードしてくれます。はたと困りました。どこから始めたらよいのか分からない。始めは訳もわからず暗中模索・

五里霧中の状態でした。

## 印象深い一言

この会のリーダーはなんて親切な人たちだろうと、強い印象を持ちました。

年会費4,000円、週3回の例会は驚きでした。

分けても「なんでも相談」は、火曜日と水曜日、当番もスタッフも無償で早くから出席して会場の準備をして、親切に優しく教えてくれる。そして最後までサロンに詰めて片付けて帰ります。

私は好きな時間に出席して好きな時間に帰る。なんとわがままな新入生だろうかとおぼろげに思いました。

瀬川さんの印象的な言葉があります。

「この歳になって少しでも皆様に教えることができ、喜んでもらえる。こんな幸せなことは無い。皆様に喜んでいただくことが今の私の生きがいです。」

この心こそ、この会のバックボーンであると納得しました。私もこの心がけを見習いたいと思いました。

私が事務局を引き受けたのは、この方たちのご指導に感謝し、その心意気に少しでもお応えしたかったからです。

お蔭様で、今ではワードやエクセルをある程度使えるようになり、事務局の役

割を何とか勤めさせていただいています。瀬川さんの言う幸せを実感しています。

### 事務局担当になって

〔蒲田サロン〕に移ってからは、器具を置いておくスペースが無いので、お茶もコーヒーも出す準備はありません。

「何でも相談」も週1回に変更されました。

しかしその精神が生かされて、賑やかで親切的な雰囲気の中で楽しく学ぶことが出来ます。

そして女性陣からはよく飴などをサーブしていただきます。

「何でも相談」に出席すると、事務に関する相談や、パソコン以外の会話も自由に出来ます。

他の例会では決まった勉強内容がありますので、あまり私語は出来ませんが、「何でも相談」は文字通り何を話題にしても皆さんの迷惑にはなりません。

私は新入会員担当でもありますので、今では初級者の相談や、新入会員の話し相手を務めることもあります。

教える技術はまだありませんが、相談されれば少しは相手が出来ようになりました。

大田区パソコン同好会は、過去の職業に関係なく、今現在の人間同士で対等な人間関係を築くことが出来ます。

パソコンの技術は稚拙で、何回教えていただいてもすぐ忘れて、同じことを繰り返し質問してしまいましたが、70の手習いでは仕様が無いとあきらめながらも、

早く技術を身につけて、お世話いただいた分は出来れば少しでも皆様のお役に立つことでお返ししたいと奮闘しています。

### 感謝の心を忘れない

私が事務局として活動できるのは、会長・事務局長の理解があつてのことです。

24年度、野崎会長が事務局長兼務で私は事務局を引き受けました。

私が何か提案すると、是非実行するようにと応援してくれます。私がやりやすいように常にバックアップしてくれました。

今年度は野崎会長、永田事務局長のもと、事務局を担当しています。

永田さんも私のやり易い様に自由に活動させてくれます。

今私が事務局を曲がりなりにも担当できるのは、野崎さんと永田さんのご指導のお蔭です。

事務局の担当に、例会日程表を作成し、運営委員会の承認を得て、会員の皆様にお知らせする役割があります。

その他こまごまとした連絡事項があります。「その連絡は私のところには来ていません」という声を時々耳にします。

「そんなことはありません。もう一度確かめてください」と応えながらも、ドキリとして、帰宅してから自分でも「送信済み」メールを調べてみます。残っているのを見つけてほっとします。

願わくば、大切な文書はしっかり読んで、きちんと整理して、保存して置いていただきたいものです。